

冷泉為人 著

円山応挙論

▼A5判・四五〇頁／定価：本体九、五〇〇円＋税

ISBN978-4-7842-1907-0

【二〇一七年一〇月刊行予定】

安永天明期の京都画壇の中心人物であった円山応挙の作品は、当時のあらゆる階層の人々に愛好され、今なお高い人気を誇る。
応挙とはどのような画家なのか。そして、応挙の写生とは何なのか。
本書では、応挙の写生を「速写の写生」「形似の写生」「生写の写生」の三つに分類して論究することで、誰もが納得する絵画を描き続ける「職人」としての応挙の姿を浮かび上がらせる。
冷泉家二十五代当主である著者の、美術史研究者としての五十年にわたる日本近世絵画研究の集大成。

【付録小冊子】(A5判・九〇頁)

理想と現実——冷泉家ご先祖様はえなかった

美術史家であり冷泉家二十五代当主である著者が、日本文化の蔵番として奮闘した七〇年を振り返る回想録。

●予定目次●

はじめに

第一部 江戸時代絵画史における応挙

- 第一章 江戸時代と絵画
- 第二章 安永天明期の京都画壇——伝統と革新

第二部 応挙の新しい写生の型

- 第三章 「花鳥諷詠」——はじめに
- 第四章 京派の絵画
- 第五章 雪松表現——新しい美の典型①
- 第六章 雪景表現——新しい美の典型②
- 第七章 鶴表現——新しい美の典型③
- 第八章 雁表現——新しい美の典型④
- 第九章 孔雀表現——新しい美の典型⑤
- 第十章 動的表现（鯉魚・瀑布・波濤・流水）——新しい美の典型⑥
- 第十一章 人物表現——新しい美の典型⑦
- 第十二章 応挙の写生図について——新出の「写生図貼交」屏風をめぐって

第三部 応挙の写生論

- 第十三章 「応挙の写生」
- 第十四章 円山四条派における裝飾性——円山応挙を中心として
- 第十五章 応挙の写生画——「しかけ」表現をめぐって
- 結章 円山応挙論

おわりに

れいぜい・ためひと……一九四四年生。

関西学院大学大学院文学研究科博士課程
修了・冷泉家二十五代当主・財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長・京都美術工芸大学学長。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	円山応挙論	本体9,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1907-0			
お名前			tel				
			e-mail				
ご住所	〒						
送本方法	代引(書籍代＋消費税＋送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎						

本書HPのQRコード

琳派 響きあう美

河野元昭著

作品そのものに誠実に向き合い、画像・文献を問わずあらゆる史料を博搜する、堅実な学問的営為でありながら、広範な学識と鋭敏でしなやかな感性に支えられた叙述力で、その時代を生きた作家たちの息づかいまでが伝わる、豊穡な河野美術史の世界。

日本近世絵画史全体にわたる業績のなかから、その中核をなす琳派研究を集成。

光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一など、琳派と呼ばれる芸術家たちが互いにどう影響しあい、独自の美を生み出してきたのか。今もなお人びとを魅了してやまない才能あふれるクリエイターたちの実像に迫る27篇。



▶A5判・880頁／本体9,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1785-4

宗達伊勢物語図色紙

羽衣国際大学日本文化研究所伊勢物語絵研究会編

17世紀前半の京都、俵屋宗達の工房で制作された「伊勢物語図色紙」は、独創的な技法、描法、大胆な発想と非現実的な表現を用いた優雅な王朝物語絵であり、いわゆる「琳派」が繰り返し描いた伊勢物語絵の〈始発〉である。

「宗達伊勢物語図色紙」はこれまでまとまって紹介されることのなかった作品だが、本書では、近年発見された色紙も含めて、59面のすべてをカラー、原寸大で掲載し、また、色紙に描かれた伊勢物語の世界の解釈、伊勢物語絵巻・絵本との比較対照、さらに、宗達における色紙の位置づけ、裏書の解説、色紙の特徴的な構図と技法、色紙成立の動機、色紙をめぐる人的ネットワークなどに関する新たな知見を収める。

伊勢物語研究者と日本美術史研究者との共同研究に基づき「宗達伊勢物語図色紙」の全体像と特徴を明らかにした一書。

【執筆】片桐洋一／青木陽鶴子／泉紀子／大口裕子／田中まき／山本登朗／河田昌之／五十嵐公一／林進

▶B4判変・220頁／本体19,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1679-6

黄金のとき 桃山絵画

京都国立博物館編

信長・秀吉と狩野永徳に象徴される桃山時代の絵画を狩野派とそれをめぐる作家たちの作品を中心に構成する。大画面一幀・屏風・大絵馬・杉戸絵を主として基本作品全100点を全8章に分けてオールカラーで収録し、各章ごとにテーマ解説を掲げ、適宜部分拡大図を収めた。巻頭概説「祭の終り―桃山時代絵画の展望」のほか巻末に作品解説を収録。

【収録】狩野永徳筆四季花鳥図幀／狩野永徳筆琴棋書画図幀／狩野永徳筆虎豹図壁貼付／狩野永徳筆仙人高士図屏風／狩野光信筆四季花鳥図幀／狩野山楽筆龍虎図屏風／狩野永徳筆三十六歌仙扁額／海北友松筆花鳥図／海北友松筆雲龍図／海北友松筆琴棋書画図／長谷川等伯筆楓図幀／長谷川等伯・久蔵合筆松に秋草図屏風／長谷川等伯筆松林図屏風／伝雲谷等顔筆梅に鴉図幀／雲谷等顔筆山水図幀／狩野光信筆豊臣秀吉像画稿／吉野花見図屏風／関ヶ原合戦図屏風／洛中洛外図屏風(舟木本)／長谷川等伯筆涅槃図／長谷川等伯筆弁慶・昌俊図絵馬／狩野山楽筆南蛮屏風／泰西王侯騎馬図屏風／四都市・世界図屏風／狩野秀頼筆高雄観楓図屏風／狩野永徳筆洛中洛外図屏風／狩野長信筆花下遊楽図屏風 ほか

▶B4判・400頁／本体40,000円(税別)

ISBN4-7842-1044-X

室町水墨画と五山文学

城市眞理子著

室町時代中期の画僧である岳翁と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様の水墨画について考察。

▶A5判・336頁／本体6,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1607-9

田能村竹田基本画譜 [全2巻]

宗像健一編著

図版篇には厳選された140点(カラー95点・モノクロ45点)の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。美術史はもちろん、豊後(大分県)の地誌編纂に携わるなどした竹田の多才にあわせ、大分県・煎茶・漢詩・儒学・歴史など広範な研究に大いに益する。

▶B4判変・総398頁／本体28,000円(税別) ISBN978-4-7842-1566-9

風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である一。

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。

絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」―虚実を往来する機微や感性の「かたち」―を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1615-4

風俗絵画の文化学Ⅲ

瞬時をうつすフィロソフィー

松本郁代・出光佐千子・杉子女王編

「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果をまとめたシリーズ第3弾。風俗画の歴史的な実証に留まらず、描かれた事象に織り交ざる虚実を読み解くことで、鑑賞されることを意識した美的な演出や、儀礼や慣習から生じた絵の上での約束事や仕掛け、信仰のイメージや地域に根ざした特殊な世界観などといった、人間の営為そのものの原理を探究する、哲学的思考(フィロソフィー)へと解釈を広げた13篇。

▶A5判・434頁／本体7,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1775-5

写しの力 創造と継承のマトリクス

島尾新・杉子女王・亀田和子編

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。

▶A5判・278頁／本体4,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1711-3

原本『古画備考』のネットワーク

古画備考研究会編

江戸時代後期に『古画備考』を(書画情報)総合集積の場として、大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を浮かび上がらせる。江戸後期の知識人による知のネットワークが幕末から近代にかけての日本の歴史に寄与した一端を解明する17論文・3コラムで構成した総合的論文集。

▶A5判・498頁／本体9,200円(税別)

ISBN978-4-7842-1674-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。